

# 熊取町議会委員会会議録

議員全員協議会

令和6年8月21日開催

熊取町議会

# 目 次

〔議員全員協議会（8月21日）〕

熊取町第4次行財政構造改革プラン「アクションプログラム」の令和5年度実績報告について .....	1
その他報告 .....	4
1. 財政収支見通しについて .....	4

## 議員全員協議会

月 日 令和6年8月21日（水曜）招集

場 所 熊取町役場議場

出席議員	1	番	文野慎治	2	番	多和本英一
	3	番	長田健太郎	4	番	石井一彰
	5	番	坂上昌史	6	番	大林隆昭
	7	番	坂上巳生男	8	番	江川慶子
	9	番	渡辺豊子	10	番	二見裕子
	13	番	田中圭介	14	番	河合弘樹

欠席議員 なし

説明員	町長	藤原敏司	副町長	南和仁
	教育長	吉田茂昭	総合政策部長	田中耕二
	総合政策部 統括理事	明松大介	総合政策部 統括理事	松浪敬一
	総務部長	永橋広幸	住民部長	木村直義
	健康福祉部 統括理事	石川節子	健康福祉部理事	阪上正順
	都市整備部長	白川文昭	会計管理者	根来雅美
	教育次長	巖根晃哉	企画財政 経営課長	近藤政則
	企画財政 経営課参事	竹田陽介	人事課長	大神輝光
	生活福祉課長	降井広志	保険年金課長	橘和彦
事務局	議会事務局長	東野秀毅	書記	阪上高寛

案 件

- 1) 熊取町第4次行財政構造改革プラン「アクションプログラム」の令和5年度実績報告について
- 2) その他報告
  1. 財政収支見直しについて

議長（河合弘樹君）皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、議員全員協議会にご出席を賜り、ありがとうございます。

本協議会には、町長ほか関係職員の出席をいただいております。

ただいまの出席議員は12名全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから議員全員協議会を開会します。

（「13時30分」開会）

議長（河合弘樹君）本日の案件は、第4次行財政構造改革プラン「アクションプログラム」の令和5年度実績報告についての1件、その他報告が1件であります。

発言される方は、挙手の上、指名された後に起立し、マイクの赤いランプが点灯した後に発言していただきますようお願いいたします。

また、案件の終わられた方は、会議の途中で退出していただいても結構ですので、申し添えます。

それでは、案件1、第4次行財政構造改革プラン「アクションプログラム」の令和5年度実績報

告についての件を説明願います。竹田企画財政経営課参事。

企画財政経営課参事（竹田陽介君）それでは、第4次行財政構造改革プラン「アクションプログラム」の令和5年度実績報告について、アクションプログラムに基づき令和5年度に実施した各改革項目について、その取組内容等を集約しましたので、次のとおりご報告いたします。

まず、1つ目、各改革項目の取組による効果額でございます。

令和5年度目標効果額2億122万3,000円に対し、実績効果額2億7,907万7,000円、差額7,785万4,000円でございます。

その下に、主なものとして、効果額500万円以上の取組を掲げてございます。まず、48番で、選択と集中による予算編成ということで、投資的事業の抑制項目でございます。こちらが9,262万2,000円。あるいは、1つ飛んで74番、ふるさと納税の推進、1億6,682万4,000円などがございます。

2ページをご覧ください。

2ページの、まず2番、令和5年度基金繰入額実績でございます。

アクションプログラムでの目標額、基金繰入れなしを目標にしておりましたが、実績額としましては、財政調整基金3億5,000万円、公共施設整備基金6,000万円、くまとりふるさと応援基金7億円、合計で11億1,000万円の基金繰入れとなっております。

その下、3番、令和5年度末の基金現在高でございます。

こちらはアクションプログラムでの目標額を52億1,300万円を目標に設定しておりましたが、実績額としましては60億2,857万3,000円でございます。ただし、こちらにつきましては、4年度のふるさと寄附金が大きかったもので、残高のほうが目標よりも多く残っているような形になってございます。

その下に、参考としまして、令和5年度の一般会計の歳入歳出決算を掲げてございます。歳入のほうが179億1,891万2,000円、歳出のほうが176億1,724万9,000円で、その差引き3億166万3,000円に対し、翌年度に繰り越すべき財源2億4,124万6,000円で、実質収支が6,041万7,000円となるものでございます。

ただし、米印のところですが、この歳入の中には、先ほどの基金繰入額11億1,000万円を含んだ上での実質収支となっております。

それでは、3ページをご覧ください。

3ページ以降は、各改革項目の取組実績でございます。

主なものをご説明いたします。

まず、3ページの1つ目、この1ページ目につきましては、デジタル化の取組項目となっておりますが、まず1つ目、改革項目、電子申請システムの導入、令和5年度における取組内容のところをご覧くださいますと、L o G oフォームを導入するなど、オンライン化について、行政手続のオンラインシステムを利用してオンライン化を進めた実績、そして、こちらは住民向け7件など、そういったところでオンライン化の実績を掲げてございます。ただし、効果額につきましては、逆に導入の経費などがかった影響で、三角の29万7,000円という実績でございます。

2つ目、がん検診等W e b予約システムの導入。ウェブ予約システムを導入することで、受診勧奨などの情報の発信や予約申込みの削減、あるいは受診率の向上につながったものでございます。

その下、3番、子育て支援アプリの活用。子育て支援アプリのくまっ子ナビの機能拡充を行うことで、デジタル問診票を導入して、住民の利便性の向上、あるいはデジタル化による入力作業の負担軽減などを図ったものでございます。

その下、4番、町立保育所のI C T化の推進。町立保育所3か所で登降園の管理システムを導入しまして、欠席・遅刻の電話連絡がアプリで可能になるなどし、利便性向上を図ったものでございます。ただし、こちらにつきましても、導入経費として1,058万4,000円など、三角の効果額となっております。

なお、これらにつきましては、令和5年度に関しては国のデジタル関係の交付金などを活用するなどしてございます。

4ページをご覧ください。

4ページ、3つ目の9番、議事録作成支援システムの導入。こちらは、AIを活用した音声認識文字起こしシステムを導入することで、職員の負担軽減を図ったものでございます。

11番、ペーパーレスの推進。こちらは、文書管理・電子決裁システムを導入することで、紙の使用枚数も令和3年度の233万枚から令和5年度は195万枚とペーパーレスの推進を図ってございます。続きまして、少しページ飛びまして、6ページをご覧ください。

6ページのところで、24番、立地適正化計画に基づく都市再生整備計画を基軸とした公共施設の最適化。こちらは、国からの補助金を活用することで計画的な公共施設の整備を行ってございます。当該計画に位置づけておる公民館・町民会館の整備、あるいは老人福祉センター、ひまわりドームの設計、こういったところの計画的な計画に位置づけた事業を実施いたしております。効果額につきましては、一番右のところで書いておるんですが、投資的事業の抑制のところに合わせて計上しております。

26番、防犯カメラの更新方法の変更です。こちらは、防犯カメラ103台のうちの55台を更新に当たりましてリース契約を、併せて新設の47台についてもリース契約を行っております。契約方法をリースにすることで、落札減などもありまして、効果額97万1,000円という形でございます。

7ページをご覧ください。

7ページ、一番下のところで、34番、戦略的な情報発信ということで、伝える広報ではなく、伝わる広報を意識し、ホームページ、LINEなどの各種SNSの特性に応じて戦略的な情報発信を行ったものでございます。

8ページをご覧ください。

8ページ、39番、講座等開催の多様化。公民館・文化ホールの整備工事に当たって全館にWiFi環境の整備を図り、あるいは文化ホールにおけるイベント情報の発信として、情報誌きてキターネを発行するなどしてございます。

一番下、41番、総合防災訓練の手法の検討。こちらは、住民参加型訓練を主体としつつ、コストダウンを図って、訓練手法を検討するとともに、併せて地域防災力を強化する取組を実施しております。5年度に関しましては、女性防災士の研修を実施しまして、64名の方に資格取得をいただいた形になってございます。

9ページをご覧ください。

9ページは事業の見直し項目が続いております。

まず、42番は地域映画会の実施方法の見直し、43番、平和推進事業の見直し、こちらは平和バスツアーを廃止したものです。

1つ飛んで、45番、就学経費等助成金、遺児福祉年金の見直し。こちらは、物価高騰等による経済状況の悪化なども鑑みながら、7年度の実施に向けて検討を行っております。

その下、46番、就学援助制度の見直しについても、7年度からの見直しに向けて調査などを行ってございます。

47番、夏季小学校プール一般開放事業の見直し。こちらは、夏休みのプール開放について、1日当たり3校のローテーションによる開放に変更して実施してございます。効果額で315万3,000円としてございます。

48番、選択と集中による予算編成。こちらは、投資的経費について、特に令和5年度の予算編成に基づいて、投資的経費の総額抑制に取り組むなどしてございます。効果額9,262万6,000円。こちらについては、国庫あるいは起債などを活用することで、一般財源の縮減を図ったものになってございます。

10ページをご覧ください。

10ページの50番、業務の見直しによる会計年度任用職員の適正配置。ただし、会計年度任用職員に関しては、令和5年度392名ということで少し増加傾向になってございます。

一番下、55番の議員定数と報酬額の検討から、その次、11ページをご覧ください。11ページの中ほど、59番の議会力の向上。こちらまでは議員皆様にもご協力いただいている項目になってございます。

続いて、12ページをご覧ください。

12ページにつきましては、63番から町税や保険料等の徴収率の向上の項目が続きます。

そのまま、引き続いて67番以降については、公有財産の処分・活用として、総務課所管分や保育所、里道などが続いてございます。

13ページをご覧ください。

13ページ、73番では、企業誘致の推進ということで、産業振興ビジョンに基づきまして、産業活性化基金を活用した形で企業誘致、そして創業支援等を行ったものでございます。

その下、74番、ふるさと納税の推進につきましては、令和5年度の寄附決算額で4億3,300万円、効果額としては1億6,682万4,000円となっております。

14ページをご覧ください。

14ページ、81番につきましては、職員数の適正管理。職員定数の311を基本として適正管理を行ったものでございます。令和5年度の4月1日の職員数としては300となっております。

その下、82番、特別職の人件費の抑制。町長、副町長、教育長の給与削減の項目となっております。効果額1,538万円でございます。

一番下、84番では、組織・機構の見直しということで、企画財政経営課あるいは自治・防災課などを設置してございます。

最後、15ページをご覧ください。

こちらは、組織づくりの項目になりますが、一番下、最後、89番の働きがいと働きやすさの実現まで、それぞれ各項目、取り組んだものでございます。

結果、右下の箱のところ、令和5年度の効果額実績としましては、総額2億7,907万7,000円の実績となったものでございます。

私からの説明は以上でございます。

議長（河合弘樹君）ただいま説明がありました本件について、質疑があれば承ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。以上で質疑を終わります。

これをもって、案件1、第4次行財政構造改革プラン「アクションプログラム」の令和5年度実績報告についての件を終了いたします。

---

議長（河合弘樹君）以上で、本日の案件は終了いたしました。

次に、その他報告が1件あります。質疑は報告が終了した後に承ります。

それでは、財政収支見直しについての件を報告願います。竹田企画財政経営課参事。

企画財政経営課参事（竹田陽介君）すみません。引き続きまして、財政収支の見直しについてでございます。

こちらは、令和5年度の決算をベースにした財政収支の見直しとなっております。

財政収支につきましては、5月28日に大阪府の中長期財政シミュレーションを中心に議員の皆様へ一度ご説明をさせていただきましたが、その際に、令和5年度の決算額が出ましたら、また改めて町独自で試算したものを示いたしますと申し上げていたものになります。

それでは、早速内容についてご説明をいたします。

まず、資料の歳入の項目をご覧くださいいただけますでしょうか。

歳入合計の下のところ、1つ目の地方税につきましては、令和5年度の42億8,400万円をベースに、令和6年度に関しては国の定額減税がございましたので、その分の1億8,000万円を減額させて41億7,300万円とし、令和7年度以降は44億2,400万円、44億3100万円、44億2200万円と、現状の経済情勢を踏まえまして、全体的な賃金のベースアップなども一定考慮しまして、その下にある地方交付税と合わせて横ばい、もしくは微増の傾向で推計をしております。その他、国・府の支出金や地方債に関しましては、その下にあります歳出のほうと連動する形で推計を実施しております。

続いて、歳出の項目をご覧くださいますと、まず人件費については、先日発表のあった人事院勧告の影響であったり、会計年度任用職員の勤勉手当を反映させた形での推計としております。令和6年度に35億3,800万円と大きくなっているのは、退職手当を含んだ形でなっております。そのほか、その下の扶助費、投資的経費、物件費などは、近年の伸び率や物価上昇率などから試算をいたしまして、それに個別事業として実施計画などに位置づけられた事業を積み上げる形で推計をしております。

例を挙げますと、例えば投資的経費であれば、6年度、7年度、8年度に小学校・中学校体育館のエアコンの設置、あるいは、ひまわりドームや図書館の改修経費を見込んでおります。物件費のところであれば、令和7年度に小・中学校のGIGA端末の更新経費、こういったところを費用として見込むなどしております。

歳入歳出を見込んだ結果、歳入の見込みに対して歳出の増加の見込みが大きいので、黄色の収支過不足の欄をご覧くださいますと大幅なマイナス収支となっております。6年度から9年度にかけての財源不足の累計で44億9,200万円という推計をしております。もちろん毎年これだけの収支不足が続きますと基金残高も、基金残高がその下のところの箱になるんですが、令和5年度末の残高が70億3,000万円あったものが、もう9年度末には26億円しか残らない形となりまして、財政悪化のスピードが早まっているというような状況でございます。

本日もご報告さしあげて、結論としましては、この財政状況を踏まえまして、先ほど実績報告をいたしましたアクションプログラムについて、その取組内容を大きく見直す必要があると考えてございます。特に事業のスクラップ、そういったところで現状のアクションプログラムの各改革項目から一歩踏み込んだ形での行財政改革にも取り組む必要があると考えておりますので、一定年度内には見直しを完了させて、できるだけ速やかに7年度の当初予算にも反映することを目標と考えてございます。

もちろん、今後、見直しに当たりましては、改めて議員皆様のご意見もお伺いしたいと考えておりますので、また12月議会、3月議会に向けて、それぞれご報告させていただきますので、よろしくお願ひ申し上げます。

説明は以上でございます。

議長（河合弘樹君）それでは、ただいまの報告について質疑があれば承ります。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。

---

議長（河合弘樹君）以上で本日の案件は終了いたしました。

ほかに何かあれば承ります。

（「なし」の声あり）

ないようですので、以上で議員全員協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

---

（「13時47分」閉会）

---

以上の協議会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議長

河合弘樹